

## R7区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会  
第1部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	「きらめきサポートプロジェクト」と「秋葉若人塾」 【事業費予算 1,600千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。また、まちづくりの担い手となる次世代の人財育成に取り組み、地域の活性化を図る。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>「きらめきサポートプロジェクト」</p> <p>(1) 灯籠でスポットをライトアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○採択団体:新津観光協会</li> <li>○実施期間:9月25日～11月20日</li> <li>○会場:堀出神社境内</li> <li>○実施内容: <ul style="list-style-type: none"> <li>・高さ80cm×幅40cmの粋灯籠34台を設置</li> <li>・新津工業高校生徒が制作</li> <li>・9月25日オープニングセレモニー開催</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 金津音ふるフェスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○採択団体:金津音ふるフェスタ実行委員会</li> <li>○実施日:10月19日</li> <li>○会場:里山ビジターセンターほか4会場、各会場合計約200名</li> <li>○実施内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内24団体出演</li> <li>・金津地域の公共施設を活用した分散型音楽イベント</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) 薬学生が地域貢献!アロマセミナー&amp;クラフト体験会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○採択団体:新潟薬科大学 香粧品・アロマセラピー研究会</li> <li>○実施日:10月11日、12日</li> <li>○会場:新潟薬科大学「新薬祭」</li> <li>○実施内容 <p>「新薬祭」でアロマセミナー&amp;クラフト体験会を実施。また、アロマハンドクリームの開発も計画通り達成し、商品名「Cletude.(クレチュード)」として新薬祭でお披露目され、発売された。本イベント当日の内容や様子については、新潟薬科大学 WEB サイト内「YAKUDAI WALK」においても報告された。(https://www.nupals.ac.jp/n-navi/walk/walk-32882/)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本商品は、アロマコーディネーター協会主催「第3回JAAアロマクラフトコンテスト」に応</li> </ul> </li> </ul>

募され、見事に 2 位入賞を果たした。  
(<https://jaa-aroma.or.jp/30th/aromacraft/>)

(4) 民話劇学校出前公演

○採択団体:秋葉区学校支援会

○日時及び会場:下記のとおり

- ・小須戸小 10月8日
- ・金津小 11月1日
- ・新津第一小 11月7日 参加者:1~4年生
- ・新津第三小 11月21日 1~4年生、地域
- ・矢代田小 11月28日 全校児童、地域
- ・新関小 12月15日 全校児童、地域

○実施内容:

にいつの昔話「きつねにだまされたあぶらげ屋」を劇化して、区内6小学校に出向いて民話劇を鑑賞してもらった。

(5) ながら見守り防犯パトロール

○採択団体:荻川わんわんパトロール隊

○日時:7月12日~随時実施

○会場:荻川地区

○実施内容:

防犯グッズ着用による地域防犯パトロール及びイベントの開催(ドッグヨガ 7回、しつけ教室 2回)

(6) 秋葉公園地区MTBコースの整備(副題:森林活用と活性化)

○採択団体:秋葉区田家2丁目町内会

○日時:7月12日以降随時実施

○会場:秋葉公園内 MTB コース及びあきはなび祭り開催会場

○実施内容:

- ・コース整備
- ・あきはなび祭りでブース出展し、MTB の PR
- ・こどもへの講習会実施

「秋葉若人塾」

◆新潟薬科大学との取組(2025年10月~12月)

応用生命科学部・生命産業ビジネス学科の1年必修科目「地域活性化フィールドワーク I」の初回講義において、第1部会(村上委員)が秋葉区の地域課題等について講義を行った。対象学生は、約60名である。地域課題の例としては、①まつりへの若者参加、②花き園芸産業、③新津駅東口まちなか再生、④区バス、⑤街歩き、⑥SLを活かす観光プランを示した。その結果、②1チーム、③2チーム、⑤2チーム、⑥3チームが関連するテーマを選び、3



	<p>か月間にわたって活動を行った。なお、これら8チームの取組み内容は次の通りであった。</p> <p>②-1 新津駅構内および駅前へのプランター設置</p> <p>③-1 商店街のシャッターを華やかに</p> <p>③-2 空き店舗でのイベント企画</p> <p>⑤-1 地図作成</p> <p>⑤-2 「遊び」うる場所づくり(空き家 BBQ、本学キャンパスに呼び工夫)</p> <p>⑥-1 JR 東日本キャラクター「とれたんず」の新津駅ホーム販売会</p> <p>⑥-2 JR 東日本観光列車「海里」と鉄道資料館のコラボ企画</p> <p>⑥-3 JR 東日本観光列車「海里」と区内スイーツ店との食コラボ企画</p> <p>◆若人塾ワークショップ</p> <p>「若者と共に考えるまちづくり」をテーマに12月17日に開催。地域課題の共有後、まちと若者がつながるにはどのような取り組みが効果的か？についてワークショップを開催した。</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>「きらめきサポートプロジェクト」</p> <p>(1)灯籠でスポットをライトアップ事業</p> <p>ライトアップする事で持続的に人が集う仕掛け作りに貢献することができただけでなく、町の防犯力向上にもつながった。</p> <p>(2)金津音ふるフェスタ</p> <p>すべての会場を回った訳ではないが、植物園会場では、来園者も聞き入る様子が見受けられていたが、主催者の指示システムの欠如や当初の計画とは違う景品の配布方法など、問題があったように思われる。</p> <p>金津地域で活動しているアーティストを中心に新潟県内のミュージシャンが24団体集まったことに対しては、とても意味があったと思う。ただし、会場の選定が金津地域の史跡名所に限定をしていた為、他会場に行きたくても場所がわからない、又、駐車場が少ない会場もあった為、会場設定に対しては、検討の余地がある。</p> <p>企画立案については、5会場に分散することで興味のある音楽を聴く為の会場を行けば良いのでとても良かった。</p> <p>事業の公益性については、秋葉区および金津地域に住まれている方々が音楽を通して集まることで一時的ではあるが活性化された。</p> <p>実効性・効率性については、色々なジャンルの音楽を5会場に分散する事で興味がある音楽やアーティストが演奏している会場を目的に出向けば良いのでとても良かった。</p> <p>今回は、金津地域を中心としたイベントで有りとても成功したのではないと思う。今後も続ける場合は、駐車場の確保することが難しいので、区バス等が利用できる会場や駐車場の確保が必要。</p> <p>今回のアーティスト(演者)は、新潟市及び県内各地から集まっていたので、会場を秋葉区文化会館を中心に各地域(コミキョウ単位)に広げても面白いのではと思う(要検</p>

討の必要あり)。

ノベルティで色々物議をかもしましたが、これ等については主催者が協賛を募っても良かったのではと思う。

### (3)薬学生が地域貢献！アロマセミナー&クラフト体験会

新潟薬科大学・薬学科の教員および学生の知識と強みを活かして、地域の健康増進に寄与する素晴らしい事業であったと高く評価できる。具体的には、計画通り、アロマハンドクリーム「*Cletude*.(クレチュード)」の発売を開始し、第3回 JAA アロマクラフトコンテストで2位授賞まで成し遂げたことは特筆すべき成果である。更に、新薬祭では、アロマ作りやクラフト体験を通じて学生と多くの地域の方々とのコミュニケーション機会を創出し、アロマがもたらすリラクゼーション効果や作業効率UPについて啓蒙活動が実施されたことは、単なる商品開発の枠を超えた地域貢献活動として高く評価できる。

### (4)民話劇学校出前公演

舞台作りには時間がかかるため、短時間で準備できる方法を検討する必要がある。また、小規模校では、地域の方々に案内をして、観劇されていたが、より多くの方々に来場してもらえたら、地域交流の一環を担えると確信した。

演劇の内容については、プロ顔負けの演技力であり、生の公演は子どもたちに訴えるものがある。

### (5)ながら防犯パトロール

令和7年度は「ながら見守り防犯活動」として、名入り防犯グッズを着用し日々の散歩を実施。視認性が高く、地域の方から関心を持たれるなど、防犯意識の向上につながった。登録状況:48名/登録犬53頭

### (6)秋葉公園地区MTBコースの整備(副題:森林活用と活性化)

マウンテンバイクのコースの整備だけでなく、地域のイベント等と連携しながら活動の広報を広め、また新たに利用者に知ってもらうための講習会を実施できた。今後は、部活動の地域移行等の動きに合わせてより子どもたちへの広報が進められるとよい。

### 「秋葉若人塾」

#### ◆若人塾ワークショップについて

日程の設定が参加しにくい日取りになってしまい、中高生の参加者がいなかったため、次年度は学校の年間計画と照らし合わせて参加しやすい日程を前もって計画できるとよい。

#### ◆新潟薬科大学との取組(2025年10月~12月)

応用生命科学部・生命産業ビジネス学科の1年必修科目「地域活性化フィールドワークI」において、約60名の学生が有意義な活動を行えた。特に、初回講義において日々、地

域課題の解決に取り組んでいる本部会委員からの講義は説得力があり、具体的なテーマ考案や活動に大いに効果があった。

事業実施実績で述べたように、8 チーム(約 50 名)が本部会提示の地域課題に関心を持ち、積極的に活動を行えた。その内、実施までこぎつけたのは2 チーム、実施にむけ現在も活動中が1チームである。実施した一つ目は、新津駅構内および駅前へのプランター設置を実施したチームである。このチームは、企画書を作成し、秋葉区役所建設課への申請と許可を正式にとり、12 月から現在も継続して設置管理を行っている。本取組によって、学生の花き産業への関心が高まったことは間違いなく、今後の本学での学びによって更なる意識の高まりと社会での活躍が期待できるきっかけとなった。実施した二つ目は、「遊び」うる場所づくりチームである。このチームでは、本学の新津駅東キャンパスと街の方々との接点作りを模索し、商店街パン屋さんとのコラボ販売会をキャンパス内で実施した。このチームは、積極的に秋葉区内を動き回り、様々な店舗さんに足を運ぶなどしており、今後の本学での成長と社会での活躍が期待できる人材育成の一步を提供できたと考ええる。また、実施に向け現在も活動中のチームは、JR 東日本とれたんず販売会を企画したチームである。このチームは、本科目終了後も継続して企画作成を継続し、正式に JR 東日本様へ企画書を提出し、イベント実現に向けて 2026 年 3 月時点においても活動中である。

僅か 3 か月の講義期間ではあったが、秋葉区のこと、地域のこと、社会のことなど様々なことを学ぶ機会を大学 1 年生という段階で得たことは大変有意義であった。

## 区自治協議会提案事業 事業評価書

### 秋葉区自治協議会 第2部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	交通（生活交通支援／公共交通利用促進）・防災（防災講演会） 【事業費予算 50千円】
事業目的・概要	<p>【交通】 公共交通に関する課題を把握し、その解決に向けて、関係課との会議や実証実験の検討を行う。併せて、区バス、金津線、下新線の利用促進を目的として、時刻表などの情報を掲載したガイドブックを作成・配布し、広報活動を展開する。</p> <p>【防災】 防災講演会等を開催し、区民が災害時の行動を習得できるよう支援する。また、必要に応じて避難所運営マニュアルの見直しや改善を促す。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>【交通】生活交通支援／公共交通利用促進 (1) 令和7年4月1日～令和8年3月31日 こども・学生向けにワンコインバス事業を実施 (2) 令和7年11月20日 第1回公共交通に関する勉強会開催 ・区バス、金津線、下新線のダイヤ及びルートについての改善を検討(継続中)</p> <p>【防災】防災講演会・視察・研修 (1) 令和7年6月14日 「秋葉区防災の日」制定記念行事(秋葉区文化会館) ・防災宣言 ・「秋葉区防災の歌(オレンジ)」披露 ・講演①「令和6年度能登半島地震初期対応検証について」 ・講演②「秋葉区の災害について」 (2) 令和7年10月26日 小合地域自主防災訓練への参加 ・開催に向けた運営会議から参加 ・地域の防災訓練を実際に体験・視察した (3) 防災ポスター作成 ・区民の防災意識向上のためのポスターを作成 ・防災宣言や防災の歌「オレンジ」を盛り込んだ内容 ・令和8年度から配布を開始予定</p>
事業の評価  <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【交通】 ○ 勉強会を通じて、区バス、金津線、下新線の課題を整理した。 ○ 区バス、金津線、下新線のダイヤ及びルート改正について、都市交通政策課や運行事業者を交えた検討会を開催予定。</p> <p>【防災】 ○ 「秋葉区防災の日」制定記念行事や小合地域自主防災訓練を通じて、区民の防災意識向上に寄与した。 ○ 防災の歌「オレンジ」は、他のイベントでも披露されるなど、若年層の防災への関心を高めることができた。地域に根差した防災の歌となるよう、今後も周知のための活動を展開していく。</p>
備考	

## 区自治協議会提案事業 事業評価書

### 秋葉区自治協議会 第3部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	Akibaくみん大学 【事業費予算 370千円】
事業目的・概要	秋葉区の特徴(鉄道、産業、遺跡、観光など)を多世代で楽しく学び・体験し、地域への関心と誇りを高める。地域の”すごさ”を知ることで、まちの未来の担う人材育成にもつなげる。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【Akibaくみん大学】 ～Xmas 花物語りから始まるスワッグ作り～ 会 場 小合地域コミュニティセンター 開催日 令和7年12月13日(土) 内 容 小合地区の花の歴史講演、市場見学、クリスマススワッグ作り 参加者数 21名</p> <p>【もち麦フェスタ】 「にいがた秋葉っ子ふゆまつり」のステージイベントとして開催 会 場 秋葉区文化会館 開催日 令和8年2月8日(日) 内 容 もち麦ストーリー(もち麦をテーマとした紙芝居)他</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【Akibaくみん大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生から高齢者まで幅広い世代が参加し、世代を超えた交流の場に繋がった</li> <li>・アンケートでは「地域の新たな発見があった」などの声が寄せられ、全体的に好評でした。</li> <li>・秋葉区の特徴である「花」文化を改めて知る機会となり、地域への愛着や誇りを育むきっかけとなりました。</li> <li>・花の歴史について色々な角度からみた講演だった。具体的な花の知識が深まり興味深かった。</li> <li>・「花博士ちゃんバッジ」や認定制度を設け、楽しみながら継続的に学べる工夫がなされました。</li> <li>・JA等の協力による鉢花の提供もあり、地域の連携を感じられる内容となりました。</li> <li>・配布資料を通じて、学びが家庭や地域へ広がることも期待されます。</li> <li>・募集開始後すぐに定員が埋まるなど、地域の関心の高さがうかがえました。</li> <li>・今後は、広報やSNSの活用、親子でより楽しめる工夫などを取り入れ、さらに充実した事業へつなげていくことが望まれます。</li> </ul>

	<p>【もち麦フェスタ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋葉区産白雪もち麦をテーマにしたオリジナルジャンボ紙芝居を上演し、ライブと組み合わせた構成は2年目を迎えて定着し、保護者からも高い関心が寄せられるなど、効果的なPRとなりました。</li> <li>・子ども向けの「もち麦のうた」やキャラクターぬりえコーナーなど、親しみやすい工夫により多くの子どもが参加し、会場の一体感が生まれた。</li> <li>・自治協ブースでは折り紙体験を実施し、作品掲示参加者へもち麦試供品等を配布。200名分をすべて配布し、区内及び区外の方々に高い関心とPR効果が確認できた。</li> <li>・試供品を家庭に持ち帰ってもらうことで、実際の消費や行動変容につながる可能性を持つ体験型啓発となった。</li> <li>・ステージ発信とブース企画を組み合わせたことで、子どもから大人まで幅広い世代に地域資源の魅力を伝えることができた。</li> <li>・一方で、動線設計や視覚的なPRに課題があり、前半の集客は伸び悩んだが、巡回型の呼び込みにより後半は改善が見られた。</li> <li>・紙芝居終了後に一部来場者が他ブースへ移動する場面もあり、今後は進行やプログラム構成の工夫が求められる。</li> <li>・雪の時期開催という課題はあるものの、会場には子どもたちの熱気と保護者の温かいまなざしがあふれ、「健康・地域・子ども」をつなぐ企画として意義ある事業となった。</li> </ul>
備考	

# 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会  
広報部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 800千円】
事業目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治協議会の活動を自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」の発行</li> <li>・FM新津を利用して、スポットCM及びFM版「あきはくはつものがたり」番組放送</li> <li>・秋葉区役所ホームページ利用して自治協・まちづくり活動のレポート記事の掲載により、自治協議会活動のPRを行う。</li> </ul>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から)</li> <li>■スポットCMの放送 10～3月：合計放送本数250本</li> <li>■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR 2号/年 第37号：R7.9.7発行、第38号：R8.3.15発行 第37号は約19,000部、第38号は約18,200部発行し、新聞折込および戸別配送のほか、公共施設等に配置</li> <li>■区役所ホームページ 自治協議会委員による自治協議会提案事業等のレポート掲載</li> </ul>
事業の評価  <small>地域課題の抽出方法や企画立案の 評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニティFMの活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○番組の収録方法を、出演者へのインタビュー形式からトークを中心としたスタイルに変更したことで、リスナーにとって親しみやすく、ライブ感のある番組内容となった。</li> <li>○一方で、番組自体の知名度や認知度はまだ十分とはいえず、発信力の強化が課題として挙げられる。</li> <li>○区役所職員にも積極的に視聴してもらい、番組に対する反応や意見を得ることで、内容の充実につなげていくことが望まれる。</li> <li>○区役所内の待合スペースや区バス車内等で番組を放送するなど、来庁者が気軽に番組に触れることができる環境づくりが有効と考えられる。</li> </ul> </li> <li>■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度の広報紙では、子ども・若者に関する記事や写真を多く掲載したことで、紙面全体の印象が明るくなり、読みやすい紙面構成となった。</li> <li>○掲載した4コママンガの評判が良く、マンガによる情報発信の訴求力を実感することができた。</li> <li>○子どもの写真を掲載する際には、保護者や学校などへの確認が必要となるなど一定の配慮が求められるが、地域の活動を身近に感じてもらう効果が期待できることから、今後も継続して取り組んでいきたい。</li> <li>○紙面の作成過程においては、自治協議会の活動内容をより分かりやすく伝えるための工夫を重ねながら作成に取り組むことができた。</li> <li>○一方で、戸別配送など紙媒体での配布に力を入れているものの、新聞を購読していない世帯も増えていることから、公共施設への設置だけでは十分に情報が届かない可能性がある。</li> <li>○今後は、新潟市公式LINEなどデジタル媒体を活用した情報発信についても検討していく必要がある。</li> <li>○若い方から興味を持ってもらえるように、HPサイトへの効果的な誘導が必要であると考える。</li> </ul> </li> </ul>

	<p><b>■秋葉区役所ホームページ利用による自治協活動等のレポート掲載</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○自治協議会委員による提案事業などのレポートを掲載しているが、掲載場所が分かりにくく、閲覧までの導線が十分とはいえない点が課題として挙げられる。</li><li>○また、掲載頻度も多いとはいえないため、情報更新の頻度を高めるとともに、SNS等を活用して区役所ホームページへ誘導する仕組みづくりが必要である。</li></ul> <p><b>■全体を通して</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○FM 版とかかわら版「あきはくはつものがたり」の作成、秋葉区ホームページに取り組むも効果がどうか、掲載内容、特に参加者の声、委員の個性等を再考してライブ感を出したい。</li><li>○インスタグラムなどのSNSメディアを活用した情報発信を検討していく必要がある。</li><li>○自治協議会委員の中にいるタレント、インフルエンサーから協力してもらいながら、来年度は広報発信のテコ入れを図っていきたい。</li></ul>
--	--

## 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会  
秋葉区未来ビジョン部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	秋葉区未来ビジョン 【事業費予算 2,200 千円】
事業目的・概要	令和 5 年度に、各コミュニティ協議会で策定した未来ビジョンの実現に向けて、持続可能な取り組みとアイデアを支援し、地域全体の資源を最大限に活用して、より良い未来を創造する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>【未来ビジョン部門】</p> <p>(1) 新津東部コミュニティ協議会 「新津東部地域コミュニティ未来ビジョン」 新津川遊歩道のマップ作りを通して世代間交流を行い、地域間の繋がりを構築した。令和 7 年 6 月 1 日～令和 8 年 1 月 31 日まで、インスタグラムでマップ掲載用の風景写真を募集した。(結果、100 件未満)</p> <p>(2) 荻川コミュニティ協議会 「おぎっ子団結プロジェクト」 わくわく広場、ゴミ拾いウォーキング、コミセンを活用したカフェの開催により、地域の多世代交流につながった。学生ボランティアを募集し、1 名が定期的にボランティア活動に参加をしてくれるようになった。</p> <p>(3) 山の手コミュニティ協議会 「フリースペース山の手」 こどもを中心にした居場所づくりにより、地域コミュニティの活性化に努めた。 ・水しぶきを浴びて思い切り遊ぼう! …7 月 29 日開催 ・フリースペース山の手…8 月 1 日、22 日</p> <p>(4) 金津地域コミュニティ協議会 「金津地域 PR 大使の任命」 若者の視点から金津地域の魅力を発信してもらうことで「金津地域」をより多くの方から認知してもらうことに努めた。令和 7 年 10 月に金津 PR 大使として、新潟薬科大学生 11 名を任命。同年 12 月にはインスタグラムを開設し、金津地域の情報発信を開始。</p> <p>(5) 満日コミュニティ協議会 「SNS フォロワー一億人プロジェクト」 満日地区の風景を題材にした写真コンテストを実施することで、地域住民の地域への愛着を深めることに努めた。令和 7 年 8 月～10 月 1 日まで募集をし、SNS 及び区内学校へポスター掲出し、広報活動に力を入れて取り組んだ。</p>

	<p>(6) 小合地域コミュニティ協議会 「ハロウィン集合「こあいミラビ」絆を深めるプロジェクト」 地域での多世代間交流を目的として、こどもたちがメインで企画をし、親や高齢者を巻き込んだイベントを開催した。(R7.10.19 こあいハロウィンフェスティバル開催)</p> <p>(7) 阿賀浦コミュニティ協議会 「阿賀満にじいろまつり」(阿賀浦コミ協と満日コミ協の共同事業) 阿賀小学校の文化祭に合わせて、展示ブースの企画運営を行った。令和6年度から継続した取り組みだが、今後も継続していけるようにこどもの声を中心に据えて企画をした。(R7.10.25 にじいろ祭り開催)</p> <p>(8) 小須戸コミュニティ協議会 「小須戸地域未来づくり事業」 小須戸地域における持続可能な街づくりを推進することを目的に、小須戸地域未来フォーラムを開催した。また、食育を通じた世代間交流の場づくりなどに取り組んだ。 ・ R7.11.15…小須戸未来フォーラム開催 ・ R7.11.29 及び 12.20…サツマイモ・サトイモ料理教室</p> <p>(9) 新関コミュニティ協議会 「新関で踊ってみた!!」 平成24年に作成したオリジナルソング「ふるさと新関」を踊る動画を集めてMVを作成する過程を通して、歌詞に込められた故郷の情景を継承し、地域交流の場を生み出すことを目的に実施する。令和7年度は、地域への広報活動に取り組むほか、撮影場所や撮影時期について地域住民と話し合う場を設けた。</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>令和6年度の事業を生かして発展的な取り組みを進めるところが見られたほか、新たな事業に取り組む団体もいて、地域の特色を活かした取り組みに貢献することができた。来年度以降は、未来ビジョンの内容以外にも各コミュニティ協議会の活動を発表しあう機会を設けることで、相乗効果が生まれるのではないかと思う。</p> <p>来年度は、運営方法や更なる発展的な事業計画への落とし込み、そして新しい担い手づくりへの伴走が必要であると思う。</p> <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働」とは、自治協議会のサイドから働きかけて構築されるものであることを実感した。また、委託を受けた団体に対するコミットメントを高めるためにも、コミュニケーションを積極的に図る必要があると考える。</li> <li>・事業の継続性や強靭性を考えた場合に、未来ビジョン以外の予算確保や工夫の面で、自治協議会と各団体が協働して取り組むことが大事だと思う。</li> </ul>

## 区自治協議会提案事業 事業評価書

### 秋葉区自治協議会 こども真ん中プロジェクト部会

区 分	内 容
テーマ・事業名	AKIHA FUJIN ROCK FESTIVAL・にいがた秋葉っ子ふゆまつり 【事業費予算 650千円】
事業目的・概要	こどもが秋葉区に愛着を持ち、親が子育てを楽しめる環境をつくるため、こどもを中心に据えたイベントを開催する。この事業を通じて、地域全体で「こども真ん中の秋葉区」を实践し、持続的な支援体制を整える。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【AKIHA FUJIN ROCK FESTIVAL】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日 時: 令和7年12月27日(土) 第1部 11:30～、第2部 14:30～</li> <li>○ 場 所: 秋葉区文化会館 ホール</li> <li>○ 動員数: 観覧者432人、スタッフ等175人、合計607人(第1部、第2部合算)</li> <li>○ 部会員は、当日の受付や会場内警備を担当したほか、事前撮影した秋葉区自治協議会PR動画を放映し、自治協議会の周知を図った。</li> </ul> <p>【にいがた秋葉っ子ふゆまつり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日 時: 令和8年2月8日(日) 11:00～15:20</li> <li>○ 場 所: 秋葉区総合体育館</li> <li>○ 動員数: 来場者3,500人、スタッフ等607人、合計4,107人</li> <li>○ 自治協議会PRブースを出店し、防災ポスター(第2部会)、もち麦チラン・試供品(第3部会)、かわら版あきはくはつものがたり(広報部会)を同封したトートバッグを配布し、周知を図った。トートバッグは200セット用意し、すべて配布することができた。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ イベント開催に向けた部会の打ち合わせ: 3回</li> <li>○ イベント実行委員会の打ち合わせへの参画: 4回</li> <li>○ 児童館についての意見交換会: 1回</li> </ul>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自治協議会と子育て支援団体が連携し、遊び場の少なくなる冬季に、親子で楽しむことができるイベントを開催したことで、地域全体で子育てを支援していく風土を育むこと、こどもたちが地域に対して愛着を持つことを促進することができた。</li> <li>○ 協賛金、協力金も多く集まり、安定的なイベント開催に向けた一歩となった。</li> <li>○ イベントの運営補助だけでなく、自治協議会の取組紹介の時間を設けたり、ブースの設置等を行ったことで、自治協議会の周知を図ることができた。</li> </ul>
備考	